

育つ後継者たち

比内芸術文化祭の2日目（11月6日）、初舞台を迎えた小さい子たちも、会場からたくさん拍手をもらっていました。

そんな子供たちをリードしたり、民謡のお離子や掛け声、ソロのステージなどをこなしている若い出演者たちもいます。彼

（女）らは、小さいころから独鈷離子が続けていて、民謡でも小学生のころから各種コンクールで優勝を重ねて来た実力者ばかり。小さな子供たちにとっては頼れる先生であり、まぶしい憧れの存在かもしれませんね。

そんな彼（女）らにとつて、独鈷離子はどんな存在なのでしょう。出演を終えた皆さんにインタビューしてみました。何歳くらいからやっていますか？



Hisami
仲澤 寿美さん(独鈷)
一度ふるさとを離れると、また特別な思ひがありますね。

高橋／独鈷離子は、小学2年から中学まで。同じころから始めた民謡は続けています。

嶋田／独鈷離子は楽器の担当で、中学まででやめました。民謡は続けています。クラブ活動が忙しくなって、やめる人が多いようです。

乳井／独鈷離子は（お父さんに連れられて）3歳くらいから始めました。民謡は、小学4年からです。

佐々木／記憶にありませんが、3歳から始めたそうです。太鼓を担当しています。

仲澤／どちらも小学4年くらいから高校3年まで（就職で上京したため）です。その後帰郷してまた始めたんです。

小さい子たちが、皆さんの背中を見て励んでいるようです。皆さんが小さいころも可愛がってくれた先輩たちがいましたか？



Yuzo
佐々木 遼二さん(前田野)
今は太鼓だけ、太鼓を極めるぐらいの気持ちでやります。

うーん、確かにいたと思うんですが、今はどこにいたのかな。カラオケなどで、ほかのジャンルの歌を歌ったりしますか？

お友達とカラオケで歌うこともあります。いろんな歌を歌います。民謡を特別に考えることもないし、音楽のジャンルの違いとかを気にすることは無いですね。

そんなときに、民謡っぽい声が出てたりしませんか？

若干あるかな？ 分からないなあ。でもまわりからは言われることもある（笑）。

独鈷離子の山車、民謡のステージで違いがありますか？



Ayumi
高橋 歩性さん(向田)
続けていると、民謡も踊りも良さが分かります。

特別に独鈷離子だから、民謡だからということでは区別することはないですね。どちらも同じ延長線にあるような感じですよ。ふるさとを離れてみて感じることはありますか？

高橋／今は学生で、秋田市の住宅が密集しているところにいるので、こっちに帰ってくるのと安心感があると、ほっとしますね。

後輩たちに、何か一言お願いします。

仲澤／友達と一緒に、たくさん楽しんで続けてくれれば良いと思います。

佐々木／ある程度の年数続けてもやめていく人が多い。プラシクがあつても、ぜひ再開して続けて欲しいです。

普段は、小さい子しかいないので、若い仲間も欲しいですね。人数がいると太鼓の音や迫力も違うと思います。（太鼓のほかに何かやってみたいことはありますか。）今は太鼓だけ、太鼓を極めたいと思います。



Rino
乳井 理乃さん(独鈷)
ときどきでも、参加してください。気分転換にもなりますよ。

たいと思います。

乳井／中学に入ると部活が忙しくなってしまうので、気分転換にでも良いので、（毎回でなくてもいいから）ときどき来て参加して欲しいです。

嶋田／やっぱり部活が始まると両立が難しく片方がダメになっちゃってしまつて・・・。

でも三味線をやるようになって民謡にもまた力が入るようになっていきました。いろんなことに興味を持って続けて欲しいです。

高橋／最初は声を出すというところが楽しいと思うんですけど、歌っているうちに民謡の良さとか、踊っている良さが分かって思うので、ずっと続けて欲しいです。

「皆さん、まだまだ若いですが、結婚して子供が生まれたら、ぜひ子供たちにもこの伝統を伝えていってほしい」と思わず言っていました。



Reika
嶋田 礼花さん(沢)
三味線をはじめ、また民謡に力が入るようになりました。